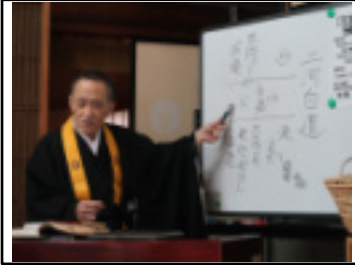


# じゅくこう

## 報恩講法要 厳修

四月十八日と十九日の二日間にわたり、当山の報恩講法要をお勤めさせていただきました。報恩講という法要は、浄土真宗を開いてくださった宗祖親鸞聖人のご命日を縁としてご遺徳を偲び、そのご苦勞に御礼を申す意味があり、年間を通じて一番大切にしている法要です。今年も拝読させていただいた『御俗姓』には



この報恩講の間に信心をいただくよう、お聴聞を勧められていきます。ご信心をいただく、ご信心を口に述べ確認をさせていただく、そしてご信心の有り難さを共に喜ぶ、それらが報恩講をお勤めする大切な意味といえるでしょう。

この度のご講師は中西昌弘先生でした。ご讚題は親鸞聖人もよく引用しておられる善導大師の『観経疏』より二河白道のお諭えです。

「また一切の往生人等にまうさく、いまさらに行者のために一

つの譬喩を説きて、信心を守護して、もつて外邪異見の難を防がん。何者かこれや。たとへば人ありて、西に向かひて行かんとするに、百千の里ならん。」

西の方向へ一人て歩みを進める旅人に突然後ろから盗賊や猛獣が追いかけてきます。必死で逃げながら前を向くと目の前に大きな河が現れます。それも北側は水の河、南側は火の河というもの。後ろに下がれない前にも進めない、止まっても同じという、いわゆる三定死の状態になります。そんな時に前を向くと河の真ん中に幅四、五寸の白道があることに気が付きます。すると東側から「その道を行け(釈迦の発遣)」という声が聞こえます。また、西側からは「この道を来い

(弥陀の招喚)「という声も聞こえます。旅人はその声に押され、引かれて歩みを進めると、何と安全に河を渡ることができたのです。これは私が救われていくお念仏のはたらきを諭えられています。浄土真宗の教えを一言で表すと「本願を信じ、念仏申さば、仏に成る。」です。煩惱がある故、一人苦しみなから生きる私を、決して見放すことなく、そのままでもいい、必ず救うと喚び続けている阿弥陀さま。その願いを素直に受け入れ、お念仏申す身となれば、お浄土に生まれ仏となります。



第85号  
(通算425号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室  
・5月20日(水)  
10時~11時半  
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室  
・5月26日(火)  
19時~20時半  
・参加費1000円

浄覚寺ピアノ教室  
・5月 金曜日開催  
(月3回)

他力真実のむねを

あかせるもろもろの正教は

本願を信じ

念仏申さば

仏に成る

そのほかなにの学問かは

往生の要なるべきや

『歎異抄』



# 御文章に聞く(第78回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

**当流勸化章**（五帖第二十二通）  
 そもそも、当流勸化のおもむきをくわしくしりて・極楽に往生せんともわんひととは、まず、他力の信心と  
 いうことを存知すべきなり、それ、他力の信心というは・なにの要ぞといえ、かかるあさましきわれらご  
 ときの凡夫の身が・たやすく浄土へまいるべき用意なり、その他力の信心のすがたというは・いかなることぞといえ、なにのようもなく・ただひとすじに・阿弥陀如来を一心一向にたのみたてまつりて、たすけたまえとおもうころの・一念おこるとき、かならず弥陀如来の・撰取の光明を放ちて、その身の娑婆にあらんほどは・この光明のなかに撰めおきましますなり、これすなわち・われらが往生の定まりたるすがたなり、

## 過去帳

亡くなった門徒の法名等を記録する帳面に、江戸時代に成立した寺檀制度により、各家庭の過去帳が作られるようになった。三五百十年もの長い記録であり、お寺にとつて信仰の歴史を記した貴重なるものであるが、一方、お寺に別な死因や出身地を記載する別な寺室がある場合、基本がなされてきた場合もある。

今回も御文章（蓮如上人からのお手紙）を味わっていきたいと思います。先月は前半の大意をお伝えしました。この御文章にはとても大切なことが書かれてあります。「ただひとすじに、阿弥陀如来を一心一向にたのみたてまつりて、たすけたまえとおもうころの、一念おこるとき、かならず弥陀如来の撰取の光明を放ちて、その身の娑婆にあらんほどは、この光明のなかに撰めおきましますなり」と、阿弥陀如来におまかせをするという信心の起こったとき、阿弥陀仏は光明を放って、その人を撰め取って生涯捨てたまわれないと説かれています。このことは、本願のいわれを聞かせていただくと同時に、そのいわれを通りに撰取不捨の利益にあずかることをあらわしています。他力の信心とは、信心といっても阿弥陀仏の仰せを聞かせていただく他なりません。またその仰せの内容は「撰取不捨」のいわれであり、仰せの内容は「撰取不捨」と、利益を得ることが同時に成立します。これを「信益同時」といいながら、他力信心の極致を表しています。

『気になる仏教語辞典』  
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

## 編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。報恩講のご法要を無事に今年も勤められましたこと、皆さまに御礼申し上げます。報恩講を含め、浄土真宗の肝要はご法座でお聴聞し、ご信心をいただくことにあります。ご信心をいただくことは、私のいのちの解決をするということ、必ずお浄土に生まれさせ、仏とならせてみせる。我にまかせよと阿弥陀さまはおられます。聞かせていただくと、そのままお任せするということ、ご信心をいただくことです。ご信心をいただくこと、浄土往生が今定まります。生死一如、いのちの行き先をあきらかにすることは、今を安心して生きることなのです。（釋法蓮）

浄覚寺の公式LINEにぜひ登録ください。デジタル「じゅこう」をお届けします。

## 行事案内

日時・五月十日(日) 十二時より  
 行事・蓮如忌法要 参拝  
 場所・久宝寺御坊 顕証寺  
 ご参拝いただける方は五月八日まで浄覚寺までご連絡ください。集合場所をお伝えさせていただきます。  
 (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

日時・六月七日(日) 十三時〜十六時  
 行事・浄覚寺バザー  
 場所・浄覚寺 境内  
 「浄覚寺バザー」は今年で最終回となります。皆さまからのご支援と、多くの方のご来場をお待ちしております。

